

2013年 ISAF 年次会議 レポート

2020年 東京オリンピック種目に470級が男女別種目として残れるか??

カイトは新種目として登場できるか !!

於 : マスカット オマーン 11/9-16. 2013

報告 大谷 たかを (ISAF イベント委員、カウンシルメンバー)

世界中のセーリングファンはもとより、今までセーリング競技に全く興味のなかった沢山の人たちを釘づけにしたアメリカス カップでの大逆転ドラマは皆さんの記憶にも新しいものでしょう。このドラマは単にあと一敗で大敗という背水の陣のオラクル(米)チームの想像にも出来なかった逆転劇はもちろんだが、サンフランシスコの海面をうまく生かしたコース取り/観客席、わかりやすいルールを取り入れ、セーラーであればだれでもほしい情報を一般の視聴者にもわかるようにバーチャル画面を実際の映像に重ねた放映はインターネットを通じて世界中を大興奮させた。大逆転の鍵がベン エインズリーとトム スリングスビーというロンドン五輪での2大スター(フィン、レーザー級のゴールドメダル)であったこともセーリング界にとってはうれしい事実であり、セーラーが他のプロスポーツに負けないぐらいの著名さを得ることが出来ることを実証してくれた。この経験を生かして今ISAFが進めようとしているISAFワールドカップをISAFワールドチャンピオンシップの毎年開催としてその位置づけを大きく高めるという作戦にうまくつなげていけるかの舵取りにはISAFの将来が大きくかかっている。



将来に向けての方向性を熱く語るカ
ルロ クローチェ会長

470は?? カイトは!!

IOCからはアーバンスポーツを積極的に取り入れるようにというプレッシャーがかけられている中、カイトのセーリング競技としてのクラスの確立(クラスルール、競技/計測ルール等)も大きく進んでおり、コースレーシングボードクラスについてツインティップ(前後が同じ形でどちら向きにも走れる)という汎用ボードのクラスも確立されつつある。追加のメダル(カイト)確保への可能性は高まってきていることを受けて、艇種の変更に次ぐ変更といった不安定さを一掃するため2016から2020にかけては現行10種目の艇種変更は行わず、メダルが追加された時にはカイトを取り入れるという決議がされた。その流れを受けて2014年度からのワールドカップでのカイト競技採用が可能となった。今回の会議で最もうれしいことは日本人の体格に最適の470級が男女それぞれの種目として2020年まで残ったことであり、東京大会メダルへの大きな期待がかけられ、若い

セーラーの夢を大きく広げることが出来ることだ。

今会議での主なトピックは

1. 2016 リオ大会

ブラジルからのレポートでは会場の準備は着々と進んでおり、懸念されている不安定な風は実際の海面でのデータ収集での結果はかなり良いとの報告。コストダウンのための会期縮小案、49er クラスが主だった選手権で試行しているシアタースタイル(幅を狭くしたレース海面、メダルレース3本等)の採用に向けて検討が進められている。2014年からリオに向けての国粋選考は2014年9月にスペインのサンタンデルで開催されるISAFセーリング ワールドチャンピオンシップ(国粋の50%を決定)から始まり、各大陸選手権、アフリカ(開催地未定)、アジア(開催地未定)、ヨーロッパ(開催地未定)、オセアニア(メルボルン)、北米(マイアミ)、南米(開催地未定)と2015年の各クラス世界選手権で争われることとなった。それぞれの大会での枠配分は別表参照。アフリカとアジアは種目を限定して合同大会開催を検討中。



多くのオブザーバーを入れてもゆったりとして見えるオマーン/マスカットの贅を極めた会議場

2. ISAFセーリング ワールドチャンピオンシップ

2015年からは今までのワールドカップ大会とクラス世界選手権を加えた5戦に加えてトップ10のみが参加できるグランドファイナルで世界チャンピオンを決定するというワールドツアー方式(毎年)を開催することをISAFが提案してきた。セーリングスポーツとしてのヒーローを生み出すことが今もっとも要求されているということに危機感を持って動き出したことはイベント委員会、カウンスルでは大きく評価されたが、各クラスからは勝者にワールドチャンピオンという冠のつかないクラス選手権は考えられないという意見やクラスによってはクラス選手権以外の大会での25エントリーという制限付きでは、途上国等からの挑戦が不可能になるのでは...という反対意見も多く出ている。

3. ISAFユースワールド(2013 キプロス)大会は新記録60か国のエントリーで大成功、新しい国のメダルも獲得も増えており、非常に望ましい方向に向かっている。

IOCユースオリンピック(2014 南京 中国)準備万端だが風が弱いことが懸念

される。２０１８年に関してはＩＯＣが大会そのものを見直しするとのことで関連事項の討議は延期された。

ＩＳＡＦユースワールド予定

２０１４年 ポルトガル タビラ ７月 １２－１９

２０１５年 マレーシア ランカウイ １２月 末

２０１６年 オマーン

２０１７年 イスラエル

なお、２０１６（主催国判断次第では２０１５）年以降は２９erが男女別の２種目となる。

- ４． 懸案であったＩＦＤＳ（国際障害者セーリング協会）がＩＳＡＦに正式に統合されることとなった。２０１３年日本で開催されたブラインドセーリング世界選手権に対して大きな感謝の意が示された。

- ５． 外洋艇計測に関して

長年の夢であったレーティング システムの統合は先ずは計測データの共用という形で第一歩が踏み出されることとなった。

- ６． <ロレックスワールドセーラー オブ ザ イヤー>
は男女共にロンドンオリンピック４７０級の金メダル後も連勝を続けるけるオーストラリアのマットベルチャー（男子）（写真中央）とニュージーランドのジョー アレン（写真左）／オリビア ポリー（写真右）（女子）が受賞した。



- ７． ＩＳＡＦ会議に先立ってアジアセーリング連盟の総会が開かれ積極的にアジア内でのイベント交流を進めてのサーキット（オリンピッククラス、ユース）構想が進められている。２０１３年アジア選手権は中止、２０１４年アジア大会（韓国 インチョン）では５カ国以上の参加が見込めない４７０女子に変わり２９er女子が採用されるが、４７０女子を残すべしとの陳情も出ている。
- ８． １０月にワールドカップを初めてアジアで開催した中国から、２０余名の大デレゲーションで来年のワールドカップ、中国でのキールボートレガッタ、２０１５年のＩＳＡＦ年次会議（海南島 サンヤ）に関してカウンシル会議中日に盛大なレセプションが開かれた。

9. 今後の会議予定

2014 年次会議 スペイン パルマ マヨルカ 11月1－8日

ミッドイヤーミーティングはイベントとエグゼクティブのみ開催予定(詳細未定)

2015 年次会議 中国 海南島 サンヤ

オリンピック開催の決まった東京での年次会議開催が大きく期待されている ！！

10. アジアセーリング連盟、ルール委員会他委員会 および大型艇関係詳細に関しては 柴沼、田中、小林・角 委員からのレポートを参照。

特筆すべきは

河野会長がイベント委員会で東京オリンピック招致に関して I S A F のサポートに感謝すると同時に現状報告と資料配布の機会を持つことが出来た。多くの国が日本でのオリンピックを楽しみにしており、リオ直後からの東京オリンピックでの予定海面での練習に関する情報等の発信が急務だ。英国などは来年にでも現地視察に訪れたいとの申し込みもある。また、オリンピック主催国であるブラジルと日本との協力関係を進めるという構想も今会期中の両国会長のミーティングで実現に向かう合意に達することができた。河野会長は新設された I S A F 懲罰委員会のメンバーに任命された。



I S A F 年次会議に続いてレーザー級世界選手権が開催された、会場は首都マスカットから100 Km 余西の砂漠地帯にあるオマーンセーリングセンター

オマーンはアラビア半島東端に位置する石油産油王国。10月から2月は安定した風と暖かい気候で北半球セーラーにとってはパラダイス環境。そこに目を付けたオマーンはこの

以上

選考大会別クオリファイ数

[illegible]